



Title	宮古高等学校 生物クラブ 「宮古島における湧水域の環境調査」
Author(s)	洲鎌, 理恵; 下地, 瑞姫; 本永, 明
Citation	琉球大学21世紀COEプログラム主催 国際シンポジウム「沖縄の生物の未来 ~生物多様性の島から環境を考える~」
Issue Date	2008-11-03
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/8607
Rights	

宮古高等学校 生物クラブ

「宮古島における湧水域の環境調査」

発表者: 洲鎌理恵・下地瑞姫・本永 明

宮古島は大部分が石灰岩で覆われており、雨は地下へ浸透してしまうため河川が少なく、湧水が多い地域である。宮古島における陸水生物の研究は、藤田(2007)の地下水の甲殻類に関する研究があるが、その他はほとんど見られない。また、近年、宮古島では地下水の汚染が懸念されている。汚染源としては、降雨時の耕作地から肥料の流入や生活排水の流入などが考えられている。本研究は、宮古島の陸水生物の基礎資料を得るために、湧水の水質および生物調査を実施した。

2008年7月～10月に調査を実施した。宮古島の湧水域10ヶ所以上で生物相と水質の調査を実施した。水質調査は、パックテストを使用し、生物調査はトラップとタモ網を使用して生物を採集した。生物相調査では甲殻類5種以上、魚類3種以上が確認できた。海岸に流れる湧水域で生物の種数が多く確認できた。水質調査では畑周辺の地点と畑が近くでない地点では硝酸態窒素の値が異なった。

